

平成29年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 1

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 判定 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び来年度に向けて(改善策等) |
|---|---|----------------------------------|--------------------------------------|--|----|--|--|
| 1 地域の食や農業、環境問題に関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。 | ① ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深めるために講演会、研究発表会等を実施する。 | 全職員 各年次 各コース 各研究会 | 【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。 | 里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満 | C | 地域の環境問題や里山里海保全の関心が高まっていると答えた生徒の割合は66%であった。 | 「大いに高まった」(14%)、「ある程度高まった」(25%)、「少しは高まった」(27%)合わせると66%という結果で、本校生徒の地域環境に関する意識は中間結果・昨年度結果に比べてともに約7%低下した。一方「おおいに高まった」と答えた生徒の割合を比較するとともに14%でおおきな変化はない。この結果から、中間結果で「ある程度高まった」・「少しは高まった」と答えた生徒が、段階的に「あまり関心がない」へと移動したことがわかる。農業をとおして地域の環境を学ぶ機会を質・量ともに増やすよう努める必要がある。 |
| | ② 校内環境美化に積極的に取り組む。 | 保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース | 【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。 | 校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満 | | | C |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の生産者や団体とともに、生物多様性に配慮した環境保全型の農業を発展させるためにも、里山里海保全への理解は大切である。環境意識の醸成につながる講演会や授業を計画実施してもらいたい。 ・清掃活動については、やらされる意識にならないように、意味合いや感謝の気持ちをうまく説明したうえで取り組ませてもらいたい。 | | | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・「環境と農業」などの授業や講演会を通じて、さらに「里山里海保全」の取り組みの理解を深めていく。 ・校内環境美化については、生徒自身が感謝の心を持って取り組むように指導していく。 | | | | | | |

平成29年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 2

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 判定 | 集計結果 | 分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等） | | |
|---|---|---------------------|---------------------------------------|---|----|------------------------------|---|-----------------------------|---|
| 2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。 | ① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢や基礎学力を身につける。 | 教務課 各年次 各教科 | 【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。 | 基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満 | C | 基礎学力が身についたと答えた生徒の割合は69%であった。 | 「よく身に付いた」・「ある程度身に付いた」と答えた生徒の割合が、最終評価は69%であった。昨年度よりも2ポイント下降した。4年前から朝学習に新テキストを導入し、基礎学力の定着・向上に努めてきた。今後も継続して朝学習に取り組み、3年間をかけて基礎学力の定着を図りたい。全体的に見ると、生徒は意欲的に取り組んではいるが、「あまり身に付かなかった」・「まったく身に付かなかった」と答える生徒が各年次ともに3割程度おり、次年度以降、それらへの指導の徹底と充実を図りたい。 | | |
| | ② 生徒の授業評価や研究授業及び互見授業を通して、授業の工夫・改善を図り、授業改善に積極的に取り組む。 | 教務課 各教科 全教員 | 【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。 | 授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満 | | | C | 授業が分かりやすいと答えた生徒の割合は54%であった。 | 「ほとんど（80%以上）の授業がわかりやすい」・「わかりやすい授業は60～80%くらいである」と答えた生徒の割合が、最終評価は54%であった。過半数の生徒が授業を「わかりやすい」と答えている。ただし、昨年度よりも3ポイント低下した。次年度以降、授業研究週間の互見授業の積極的な活用や個々においても授業の工夫と改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上に努めていかなければならない。 |
| | ③ 3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。 | 進路指導課 各年次 各学科 | 【成果指標】 個々の生徒が積極的に資格取得へチャレンジしている。 | 過去3年間の平均値に対し、資格取得にチャレンジした生徒の割合が A 120%以上 B 100%以上～120%未満 C 80%以上～100%未満 D 80%未満 | | | | | C |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力が向上したと生徒自身が認識できる、客観的なデータが必要ではないかと思う。 社会に出てからも各種試験はついて回るものであり、仕事に関係していなくても資格取得の評価は高い。学生のうちに資格等に積極的に取り組むのはよいこと。 1年次から積極的に資格取得をさせていることはよいこと。生徒は自信をつけて行くことができる。 | | | | | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 学力の推移や前年度比較するための教材を導入し、学校全体や個人の学力分析を実施していく。 授業改善については、互見授業やICTの活用などを含め継続して取り組んでいく。 資格取得の奨励は、生徒の職業意識を高め、自信を持たせる上で成果があると思われるため、継続して取り組んでいく。 | | | | | | | | |

平成29年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 3

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 判定 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び来年度に向けて(改善策等) |
|---|--|----------------------|--|---|----|--|---|
| 3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。 | ① 生徒が自発的に挨拶を行うように、授業や登校指導において挨拶の指導を行う。 | 生徒指導課 全教職員 各年次 | 【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。 | 自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | C | 自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の割合は61%であった。 | 一昨年度は68%、前年度は70%であり、今年度は61%と下降した。登校時の声かけは、あいさつの励行や正しい着こなしを意識させる場として、有効な手立てであるという共通認識のもと、全教員による朝の登校指導を計画したが、教員の協力体制や生徒への意識付けが整わない状況があった。(マナー週間についても形骸化が見られる)平成34年度には農業クラブ全国大会が石川で開催されることもあり、危機意識を共有しながら機運を高め、次年度以降、教職員が一丸となりあいさつ運動に取り組むことから推進したい。 |
| | ② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。 | 生徒指導課 全教職員 各年次 | 【成果指標】 基本的な生活習慣が身につけ、遅刻者が減少している。 | 過去3年間の平均値に比べ、遅刻者数の割合が A 70%未満 B 70%以上～90%未満 C 90%以上～110%未満 D 110%以上 | D | 過去3年間の平均値に比べ、遅刻者数の割合が147%増加した。 | 基本的な生活習慣に対しては、81%が「しっかり身に付いた」又は「ある程度身に付いた」と回答をしているものの、12月末でのべ遅刻者数は1456人となり、前年度12月末の遅刻者数1039人と比較し、417人(40%)増加している。このことから、頻繁に遅刻を繰り返す生徒が2割程度存在し、その改善に苦慮している現状がある。年間の半分を無遅刻月間とし、遅刻者に対して奉仕作業を課す等の遅刻防止に向けた取り組みを実施してきたが、遅刻の多い生徒の生活習慣の改善にはなかなか効果が現れなかった。今後も様々な機会を通じ生活改善への意識付けを実施していく。 |
| | ③ 集会や総合的学習の時間・HRにおいて、あり方・生き方についての学習に取り組み、他者への敬愛と協力を尊重する態度を育てる。 | 生徒指導課 全教職員 各年次 | 【成果指標】 アンケート結果により、他者を敬愛する態度が育まれている。 | どのような理由があろうとも、いじめは絶対に許されないものと答えた生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 | D | どのような理由があろうとも、いじめは絶対に許されないものと答えた生徒の割合が74.8%であった。 | 計4度(5,7,9,12月)のアンケート結果を集計すると、あてはまる74.8%、あてはまらない5.4%、わからない19.8%であった。さらに、「あてはまる。」との回答が回を追うごとに低下していることも懸念される。(5月78.3%、7月74.5%、10月73.7%、12月72.7%) また、学年別に見ても、学年が上がるにつれ数字が低下する傾向も中間報告以降同様である。(1年83.5%、2年76.8%、3年64.5%) この結果より、いじめに対して現状が見える。来年度は教育相談課や学年との連携を一層強化したうえ、改善を図りたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> 率先した挨拶は自尊感情の高まりと連動していると思う。小さな成功体験を学習活動や部活動、課題研究で積み重ねてリーダー的生徒を増やしていくとよいのでは。 遅刻指導については、学校よりも家庭・保護者の責任が重い。家庭・保護者と連携して取り組んでいく必要がある。 いじめアンケートで分からないと答えた20%弱の生徒の分析は重要である。ただ日頃現認することがないので答えようがないと思っている生徒も一定数いると感じる。、評価基準は再検討したらよいのではないかと。 | | | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員全員の協力体制のもとに、規範意識、マナーの向上など基本的な生活指導に取り組みたい。 挨拶や遅刻の指導については、家庭・保護者と連携して学校全体で粘り強く取り組んでいきたい。 いじめに対する問題意識の共有を学校内ですすめる。そのうえで鋭敏な感覚を職員が持つように研修会等を実施していく。 | | | | | | |

平成29年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 4

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 判定 | 集計結果 | 分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等） |
|---|---|------------------------------|--|--|----|--|---|
| 4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。 | ① 講習会、講演会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。 | 特活課 農業クラブ 全教職員 各年次 | 【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。 | 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B | 部活動や研究会活動に積極的に参加していると答えた生徒の割合は75.5%であった。 | 部や研究会活動に毎回参加とほぼ毎回参加と回答している生徒が75.5%おり、参加状況より積極的に取り組んでいる生徒も同値と考えられる。この状況は、ここ数年に渡り取り組んできた部活性化の結果だと思慮出来る。課題としては、冬期間における活動場所の減少により生徒の意欲低下に繋がることも考えられるためその対策も必要となる。今後も継続して活性化に取り組みたい。 |
| | ② 農業クラブ活動の活性化を図り、全国大会への出場者増加に取り組む。 | 農業クラブ 農業科 各研究会 各コース | 【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。 | 農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 6名以上 D 学校枠の5名のみ | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> 目立った成果はまだないが、部活動の状況はよくなりつつあるように感じる。部活動の活性化は生活指導面や学習活動面にも良い影響を与える。 43年ぶり農業クラブ全国大会での最優秀賞（文部科学大臣賞）は、受賞者のみならず学校全体の自信につながる。受賞を有効に活用することも必要では。 | | | | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動への全員加入の指導を継続するとともに、各コースの研究会活動も活性化させ、生徒の放課後活動の充実を図りたい。 農業クラブ活動については、意見発表やプロジェクト研究を計画的に進め、農業鑑定や測量など技術競技も含め、より一層の成果があがるような指導に努めたい。 | | | | | | |